

246
13
198

日
鑿

盛
之

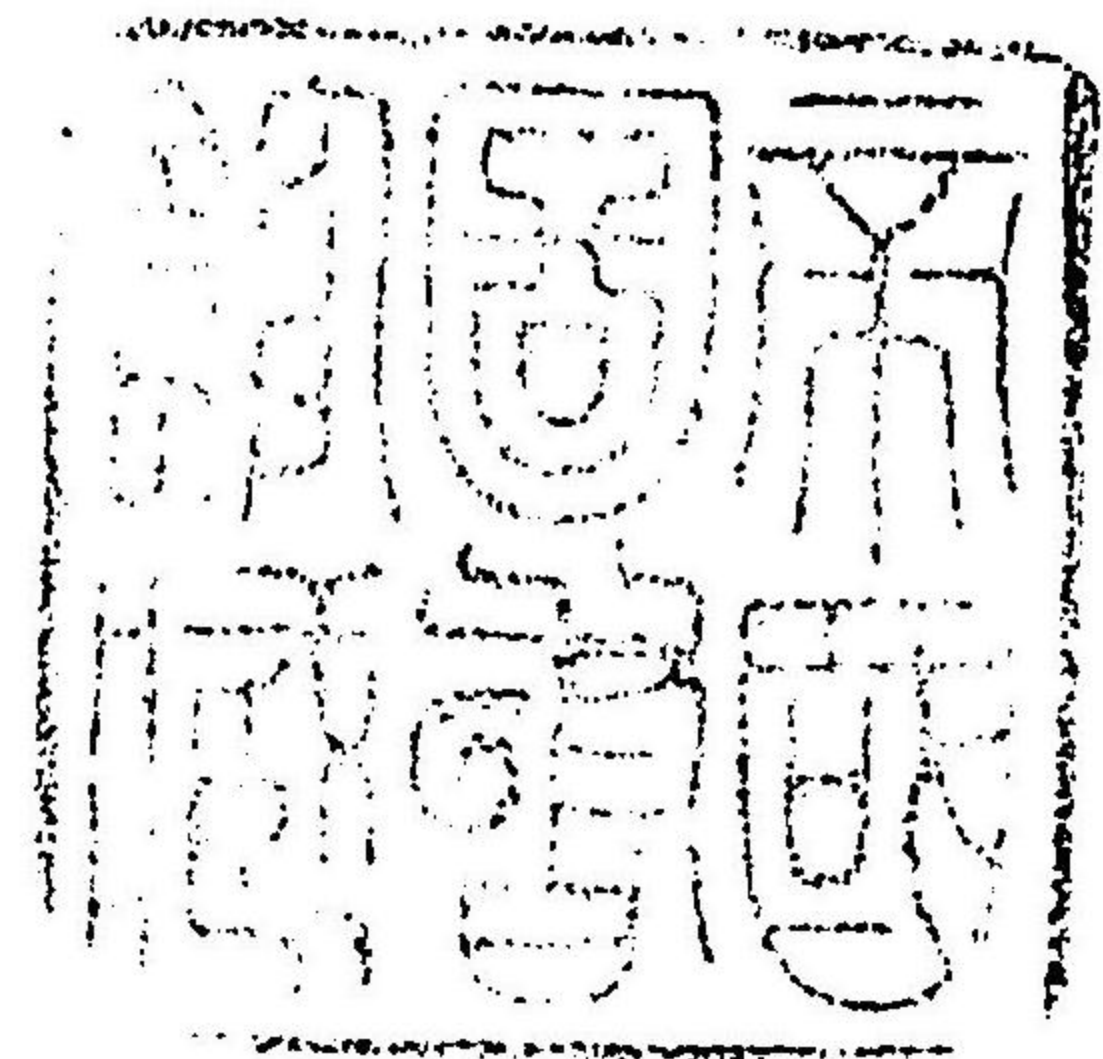
佛
原

菩
部
鳥

小
壇

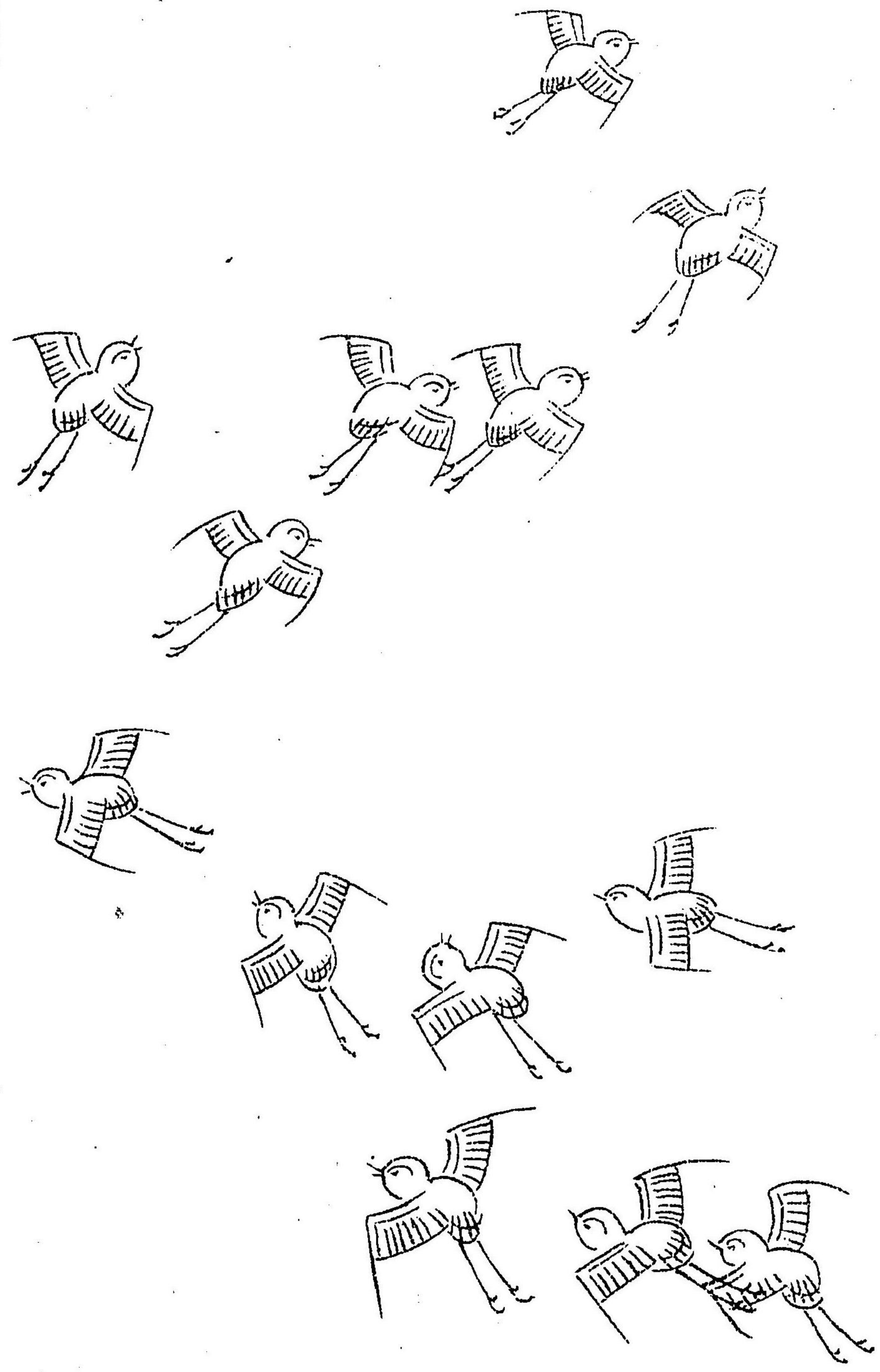
觀世流改訂儒本

内十九



觀世清之
長之世

明治
43. 5. 31
内交



文學博士 井上毅因 本文監修
 丸岡桂 本文訂正
 親世清之 節附訂正

脇能

白 駢

三月 前ツレ
シテ
 白髮明神前漁翁
ワキ 勅使

早瀬第一
ツク

君と神との着まぎよく作らるる

は人々の心下あり扱もどけ白髪

の心おの霊神のてまはるる若決終不

思案しん靈草の古春あかた

るいんあからあまのてあまの霊草と

被^{コオム}く。今^{イマ}。日^ヒ。影^{カゲ}の。長^{ナガ}。き。の。事^{コト}。也^{ナリ}。
 年^{トシ}。信^シ。使^シ。の。る^ル。九^ク。重^{ジュウ}。の。宮^{ミヤ}。の。事^{コト}。也^{ナリ}。
 此^{コノ}。着^キ。の。色^{イロ}。は。く^ク。膚^ウ。を。た^タ。く^ク。は。花^{ハナ}。の。園^{ヰン}。也^{ナリ}。
 赤^{アカ}。指^{ササ}。の。の。き^キ。も。花^{ハナ}。の。事^{コト}。也^{ナリ}。
 江^エ。の。着^キ。も。ぎ^ギ。の。事^{コト}。也^{ナリ}。
 ま^マ。の。事^{コト}。也^{ナリ}。
 金^{カネ}。の。事^{コト}。也^{ナリ}。

風^{カゼ}。院^{ヰン}。を。入^イ。る^ル。事^{コト}。也^{ナリ}。
 湯^ユ。の。事^{コト}。也^{ナリ}。
 今^{イマ}。の。事^{コト}。也^{ナリ}。
 春^{ハル}。の。事^{コト}。也^{ナリ}。
 女^メ。の。事^{コト}。也^{ナリ}。

此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。

此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。
 此の如く。東使の来朝。一。其の如く。

家^ノ位^ヲを^シ可^クあ^らせ^し男^ノを^シて^シの^ノ
 後^ニも^シあ^らせ^しの^ノ輪^ヲを^シ
 可^クの^ノ一^ノ載^ヲの^ノ地^ヲ改^メの^ノ後^ニ
 て^シ後^ニ第^ニ九^ノの^ノ滅^ヲ却^シ人^ノ壽^ヲ二^ノ萬^ノ歲^ノ
 時^ニカ^シ業^ヲ世^ヲ尊^ヲ由^テ夫^ノ世^ヲに^シて^シ
 する^ノ大^ノ能^ヲ於^テ尊^ヲ其^ノ授^ク得^ル者^ト
 率^ニ夫^ノ位^ヲを^シ給^フが^ラわ^レ相^成

●サシクセ獨吟

道^ノの^ノ後^ニ貴^ク教^ヲ深^ク存^シの^ノ地^ヲの^ノ可^ク
 なる^ノの^ノ南^ノ瞻^ヲ新^ク所^ト
 昔^ニ来^リ行^クと^シ序^ヲ信^スけ^ルの^ノ邊^ニ
 と^シあ^らせ^し海^ヲに^シて^シ切^ク衆^ヲを^シ養^フ有^ク
 佛^ノ性^ヲ如^シ身^ノ書^ヲ一^ノ住^ヲ無^ク有^ク震^ヲ易^クは^シ波^ヲ
 の^ノ勢^ヲ一^ノ波^ヲの^ノ蘆^ヲを^シ深^ク圍^メの^ノ一^ノ
 つ^レ鳥^ノと^シあ^らせ^しん^ガた^レ自^ラ相^成現^ルの^ノ波^ヲ

止土濃あり其後人壽百歳の時。
 春と生れぬて十平の春
 の頃頭水面石路に交響のほと
 清えぬるさるる佛の壽を減
 法界の妙辨ありて昔廣の茶の
 鳴とありて中り國と云はれぬ
 時、鷹草葺不念し集のまてな

れど佛法の名も人々を驚かす
 比叡の禁果ははる昔者の海の
 ほろろなる鐘を響かすありて
 尊ありて向て指ぬる地のま
 らも流るるありて佛の壽を
 の地とありて一箇の翁を
 申まぬるありて佛の壽のま

孝行

固く格を以て一傳康成を

りたり其時の翁も今も

こゝろ

てあつた

の

か

の

の

燈籠

れ

び

ま

釣

神

ふらむをなほひりりく中興序の女の逢

ま枝のまきゝま静直補が枝も舞うん

ふし上後のさし甲のつら乙あ丙あ丁あ戊

神上のさ中のさ下の威上の壇中も下

てさ上の物中の使下のま上のた中の鐘下

あり上のま中のま下の壇上のま中のま下

く上ま中の物下のま上のま中のま下のま上

靡上のま中のま下のま上のま中のま下

春上のま中のま下のま上のま中のま下

らあ上のま中のま下のま上のま中のま下

のま上のま中のま下のま上のま中のま下

後上のま中のま下のま上のま中のま下

夜上のま中のま下のま上のま中のま下

勅使上のま中のま下のま上のま中のま下

神樂

感^ニ入^ルた^ニま^ニ又^ニ踏^ムよ^ニ又^ニ立^チう^ル岸^ニ
に^テ勢^ノ龍^ノ神^ノの^ハ脚^ノ水^ノの^ハま^ニ辨^ルて^ハ波^ノ
を^シ波^ノを^シ穿^テち^テ天^ノ地^ノの^ハあ^リて^ハ
飛^ビも^ウり^テ行^クけ^レ行^ク空^ノも^ハ向^フ
雲^ノの^ハく^レ神^ノの^ハ作^ルも^ウ神^ノ代^リも^ハあ^リ
る^ハけ^レら

四番目
畧二番

威^{モリ}之^{ヒサ}

三月^{シテ}ワ^{キテ}キ^盛太^{土屋}刀^三取^郎

如^{シテ}か^ガの^ハ屋^ノ敷^ノの^ハ申^スま^ズも^ウ事^トし^ル
何^レぞ^ノよ^シと^モぞ^ノ今^ニ南^ノ東^ノよ^シト
り^テか^ガの^ハ屋^ノ敷^ノの^ハ申^スま^ズも^ウ事^トし^ル
方^ニ入^ル薬^ノを^シま^ニて^ハ終^ルて^ハ入^ル早^ク
そ^ノの^ハか^ガの^ハ屋^ノ敷^ノの^ハ申^スま^ズも^ウ事^トし^ル
入^ル薬^ノを^シま^ニて^ハ終^ルて^ハ入^ル早^ク

悲の觀を音かゝり草かゝり響
 き響け来し梅し念を頼又あつま
 てや多し平知湯の古備儀あり
 んやあき席を羨惜しり
 清水寺の若威 福の春あまき若
 残り家 善の心も女も音羽の
 龍つ心と人知るし 目見やが柳

梅の心かたけりし鐘と音かゝり
 響の空と声と心と音の響りあ
 りかたけりし音の響りあ
 ありし音かゝりし音の響りあ
 ありし音かゝりし音の響りあ
 ありし音かゝりし音の響りあ
 ありし音かゝりし音の響りあ
 ありし音かゝりし音の響りあ
 ありし音かゝりし音の響りあ
 ありし音かゝりし音の響りあ
 ありし音かゝりし音の響りあ

船の船員等三條の海田は道うち
出でて見ゆが真名ある所の屋敷に願
箱根は狩りてはるる夜に藤
倉の蔵あつてく^{ミツク} 蔵中ミツクと
あつて蔵の邊に建てたるおの
ら^{ツク} 蔵の中は^{ツク} 蔵
東の蔵は^{ツク} 蔵の蔵に^{ツク}

蔵の邊に建てたるおのら
蔵の中は蔵の中は
蔵の邊に建てたるおのら
蔵の中は蔵の中は
蔵の邊に建てたるおのら
蔵の中は蔵の中は
蔵の邊に建てたるおのら
蔵の中は蔵の中は
蔵の邊に建てたるおのら
蔵の中は蔵の中は

アミロウの海へと アミロウの海へ
アミロウの海へと アミロウの海へ
アミロウの海へと アミロウの海へ
アミロウの海へと アミロウの海へ
アミロウの海へと アミロウの海へ
アミロウの海へと アミロウの海へ
アミロウの海へと アミロウの海へ
アミロウの海へと アミロウの海へ
アミロウの海へと アミロウの海へ
アミロウの海へと アミロウの海へ

今 ^早 船の海へ
花の海へ 船の海へ
花の海へ 船の海へ
花の海へ 船の海へ
花の海へ 船の海へ
花の海へ 船の海へ
花の海へ 船の海へ
花の海へ 船の海へ
花の海へ 船の海へ
花の海へ 船の海へ

蔵

早

信毎也。法燈を蒙るは。かろ
く。今更また。僕浦。やまの。ま
中暇を。給を。入。し。法燈を。僕浦
した。く。さ。あ。お。な。ま。出
屋。の。し。と。轉。聞。由。ま。あ。ん。の。し
あ。お。な。ま。大。意。大。悲。の。薩。埵。の。悲。願
定。業。亦。能。轉。の。言。薩。埵。の。直。道。と。る。

下カ元
も。く。無。縁。の。善。根。を。盡。し。め。ん
道。を。捨。て。今。生。の。行。善。を。修。め。ん
後。生。善。所。を。作。り。頼。ま。ん。と。せ。れ。願
望。着。字。く。大。智。の。抄。約。書。を。修。め。ん
あ。ま。の。威。漕。王。難。苦。障。を。除。く。爲。め。
念。彼。觀。音。力。が。身。地。境。あ。り。が。た
や。法。燈。を。轉。聞。申。せ。り。今。も。頼。も

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

閑よて。若し猿。千秋の鶴が。園の松に
 葉の散り。交せま。して。その鳥。長
 舟の。怒。あり。長舟の。怒。あり。と。願。り。申
 して。俣。出。ひ。る。感。之。び。け。申。ぞ。ゆ
 一トニシテ

三番目
變物トイフ

佛原

九月シテ 佛前前女
旅僧

早業。精の。杖。深。き。雪。は。白。び
 尋ねん。これ。都。方。より。も。で。たる
 僧。と。して。ち。の。葉。た。白。の。猿。を。せ。ま。し。の
 佛。よ。深。く。目。を。見。入。り。き。よ。し。の
 心。の。ま。の。さ。ら。し。く。そ。ま
 の。雪。の。深。さ。の。杖。の。杖。

乙
 佛の屋より昔も昔も
 留さるる名蹟ありて今も昔も
 佛の屋の縁ありて人の名も
 一佛の屋の觀又佛の屋の觀
 佛の屋の佛の屋の時佛の屋の
 佛の屋の佛の屋の時佛の屋の
 佛の屋の佛の屋の時佛の屋の
 佛の屋の佛の屋の時佛の屋の

●三

甲
 佛の屋より昔も昔も
 留さるる名蹟ありて今も昔も
 佛の屋の縁ありて人の名も
 一佛の屋の觀又佛の屋の觀
 佛の屋の佛の屋の時佛の屋の
 佛の屋の佛の屋の時佛の屋の
 佛の屋の佛の屋の時佛の屋の
 佛の屋の佛の屋の時佛の屋の

●サシクセ揚吟

歌聲の響きも
佛の心も
原の草花の優
首の髪も
小僧の心も
草花の優
首の髪も
小僧の心も
草花の優
首の髪も
小僧の心も

待詠
早書
露の草花の優
首の髪も
小僧の心も
草花の優
首の髪も
小僧の心も
草花の優
首の髪も
小僧の心も

シテ佛のまへに。深奥の佛の衆也。
めある袖 地に名又サ 舞を。見せしうま。

高シキ だらり 有 佛のほ名と尋ね見ん 上地 あり。
又ハ 佛の地 ノ 舞 ノ 舞 ノ 舞 ノ 舞

教へも。幾宿のせぞろ 上地 前佛の衆
ぬ。 下下 舞の衆 上地 舞 上地 舞 上地 舞

のせぞろ 上地 舞 上地 舞 上地 舞

も音なり。 上地 舞 上地 舞 上地 舞
の。 上地 舞 上地 舞 上地 舞
て人 上地 舞 上地 舞 上地 舞
浮る 上地 舞 上地 舞 上地 舞
さる 上地 舞 上地 舞 上地 舞
か 上地 舞 上地 舞 上地 舞
捨て 上地 舞 上地 舞 上地 舞

何月
二
三
四

四
番
目

善知鳥

四
月

ワ子ツシ
キ方レテ
旅千妻 穰
僧代堂 野
 童 幽
 靈

早
此の諸國買ひ得るものありませ
陸奥京都の濱を自らが見る程に深
思ひまゝ京都の濱を自らが見る程
又
また
また
また

のため落なき供養を懸るるに際し
 江邊大い進みあるも若狭智次より
 清えぬ一區執入真執あるも法
 水は勝たりかみあきらみ舟車を罪
 疥の心からりもまた島敷の敷
 一衆罪始籍罪曹司の只の懸る
 江邊僧外江邊の懸る懸る懸る

松葉下むらむら心廣の末
 一區の里の誰の海の若屋形園
 とまりて懸る回したるの京都
 の邊にありける懸るおひやく
 ありぬらぬら形も守るこ親
 子して年を取らぬも
 有様あり長びづる

花のけり。

善知鳥

四番目
畧三番目

小塩

三月シテ
ワキ 在原業平前翁
男

^{ツヨク} 甲第ニシテ...
^{トコ} 花より...
^{シモ} くるも...
^{オオ} ひまの者...
^{サカ} 今を...
^{サシ} 面影...
 都の

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

舞の音を聴きしとき
舞臺の上を歩みしとき
舞臺の隅を歩みしとき
舞臺の裏を歩みしとき
舞臺の影を歩みしとき
舞臺の光を歩みしとき
舞臺の空を歩みしとき
舞臺の地を歩みしとき
舞臺の空を歩みしとき
舞臺の地を歩みしとき

舞臺の上を歩みしとき
舞臺の隅を歩みしとき
舞臺の裏を歩みしとき
舞臺の影を歩みしとき
舞臺の光を歩みしとき
舞臺の空を歩みしとき
舞臺の地を歩みしとき
舞臺の空を歩みしとき
舞臺の地を歩みしとき
舞臺の上を歩みしとき

●サシクセ獨吟

花も昔も情白雲の如くの櫻アケボノ花
 花ありて花見車アケボノ着るも白の
 花よ昔よりさくさく春昔アケボノ新價
 多し。花よ昔アケボノ昔の歌惜アケボノ花
 花見時あり思ふも昔の歌アケボノ
 止むはるか昔の歌も昔の歌アケボノ
 心の如く昔の歌も昔の歌アケボノ

●任舞

甲二一 花見車アケボノの如くの櫻アケボノ花
 花ありて花見車アケボノ着るも白の
 花よ昔よりさくさく春昔アケボノ新價
 多し。花よ昔アケボノ昔の歌惜アケボノ花
 花見時あり思ふも昔の歌アケボノ
 止むはるか昔の歌も昔の歌アケボノ
 心の如く昔の歌も昔の歌アケボノ

あしがぬくまぬく旅を思ひ
の奥あへる心重なるはら
あはれもまじりしもの
なれ人の心武蔵野の
焼もそよ草の妻もあ
またあへる大倉の
足踏の行く同楽の
あ

●仕舞

今も名は昔男ぞと人も
あはれもまじりしもの
なれ人の心武蔵野の
焼もそよ草の妻もあ
またあへる大倉の
足踏の行く同楽の
あ

二 完天二トノ子二二二トノ子
 九
 め。後てら買めて。春の夜のは。曙
 の花は。残るらん。

明治四十三年五月二十日印刷
 明治四十三年五月廿五日發行

訂正者、檢印
 ナキモノハ偽版也



訂正兼 發行者 丸岡



印刷者 塚原錦三郎

印刷所 凸版印刷株式会社

東京市麹町区中六番町廿九番地

發行所

觀古流改訂本刊行會

電話番町二五四番

246
 13
 198

